

2021 年度日本建築学会北海道支部技術賞 受賞者一覧

◆北海道支部技術賞

遠藤謙一良 株式会社 遠藤建築アトリエ
安藤 耕作 株式会社 ANDO Imagineering Group
齊藤 雅也 札幌市立大学

表彰技術名 — 森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～

審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。Covid-19 感染拡大防止のために、2回ともオンライン会議とした。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記2件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：(1) 積雪寒冷地における『ZEB』を実現する太陽光パネルの設置の工夫～ダイダン北海道支店エネフィス北海道～、(2) 森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～ (受付順)

第1回の技術賞選考部会は、募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき、技術内容を把握した。応募技術について、技術の独自性または有効性を裏付ける追加情報の提供を依頼することとした。

第2回の技術賞選考部会は、提出のあった追加資料を併せて、技術内容について再度各選考委員が議論したうえ、投票により「森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～」を技術賞表彰候補とした。選定理由は、下記の通りである。

流通材でない北海道地産のエゾマツをふんだんに使い、在来軸組工法で HP シェル形状の屋根を特徴とする魅力的な建築空間を実現した技術、その空間形状に合わせて室内気候を計画した技術が示された。前者については、エゾマツの選定から製材まで3年以上携わられた根気、木材の質感を生かした構造計画と建築計画の融合が、特に注目された。後者については、施工後のデータ収集により、計画時のシミュレーション結果の検証や室内環境の実測評価、温冷感の詳細な把握により、有効性を追跡確認する入念さが評価された。カラマツやトドマツの建築分野での利用が注目されている中、一つの建築物を通してエゾマツのもつ可能性を明示されたことは、構造材として活用可能な北海道の森林資源の多様性を再認識させるものでもあり、地域性と独自性、有効性と新規性に鑑みて、技術賞表彰候補にふさわしいと評価された。

後日、支部役員会において、技術賞選考委員会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2021 年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責 岡崎 太一郎)